

文化の秋を堪能 宇城市文化祭

11月3日～4日と11日、宇城市文化協会（久山輝哉会長）5支部主催の宇城市文化祭が、ウイングまつばせ、レポート、不知火公民館、三角センターなどでそれぞれ実施されました。

各会場で、コーラスや詩吟、日本舞踊などのグループが日ごろの練習の成果を披露したほか、館内では、絵画や写真、書道、パッチワークなど各分野から素晴らしい作品が多数展示され、訪れた市民の目を引いていました。

秋晴れに恵まれ、多くの市民が訪れ、文化の秋を堪能しました。



松橋コール・グリーンによる素晴らしい歌声



レポートでの展示

脈々と受け継がれる芸能 一堂に 宇城市伝統文化芸能まつり

10月28日、ウイングまつばせの文化ホールで「第3回宇城市伝統文化芸能まつり」が開催されました。（宇城市教育委員会主催）

この日は、宇城市内の各地で伝統文化を継承する団体のうち13団体が出演。これらの芸を一目見ようと、市内外からの大勢の観客が押し寄せました。

初めに特別公演では、天草の春を彩る、「うしぶかハイヤ踊り」が威勢のいいリズムと躍動感あふれる踊りを披露。

その後、各町の団体が神楽や太鼓、獅子舞など、先人から受け継がれている芸能を力強く披露し、会場は伝統文化一色に染まりました。



威勢良く豊作を願う「松橋豊年餅つき踊り」

阿波踊りなど全国に点在しているハイヤ節のルーツといわれる「うしぶかハイヤおどり」

偉大な先輩たちに続け！ 上村春樹旗小川柔道大会



柔道界のホープ、秋本啓之選手を先輩に持つ松橋中は準優勝

11月3日、第17回上村春樹旗小川柔道大会が、小川中学校体育館でありました。この大会はモンリオール五輪柔道無差別級金メダリストの上村春樹さん（北京五輪日本選手団総監督）に続けと毎年開催されています。

第9回大会には、今年の世界大会代表（66kg級）にもなった秋本啓之選手（松橋町出身）も参加しており、このときは優秀選手に選ばれています。

県内から30チーム、約300人の小中学生が参加。残念ながら、上村春樹さんは北京五輪準備のため欠席でしたが、選手たちは、「エイ！」「ヤー！」と気合を込めた投げを見せるなど精いっぱい、試合に臨んでいました。

結果は、中学校の部で松橋中学校が2位、少年の部で小川少年Aが2位に入りました。また、優秀選手には、松橋中の長谷河雅也選手が選ばれました。

第6テーマは「がむしゃら」 第6回青照祭

11月3日、三角町波多にあるメディカル・カレッジ青照館（徳永温正校長、学生405人）で恒例の「青照祭」が行われ、市民など多くの来場者で賑わいました。

メディカル・カレッジ青照館は、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の3つの療法士を育成するリハビリテーション専門校で、旧三角町の誘致活動により平成12年に開校。

第6回目を迎える「青照祭」はテーマを「がむしゃら」とし、学生たちによるリハビリ体験コーナーや模擬店・フリーマーケットなどが開催されました。



作業療法の体験コーナー

収穫の喜びと米づくりの大変さを実感 小学生が稲刈り体験学習



刈った稲を自慢げに見せる子どもたち

10月22日、不知火小学校の5年生64人が不知火町塩浜地区の田んぼ（中山健一さん所有）で稲刈りをしました。

これは、総合的な学習の時間の授業の一環として、子どもたちに農業の大切さや作物のできる喜び知ってもらおうとJA熊本宇城不知火青壮年部（松野光倫部長）の助力を得て毎年行われており、今年6月に自分たちで植えた稲を収穫しました。

子どもたちは松野部長から稲の切り方を習った後、自らの手で植えた稲の成長を確かめながら、黄金色に実った一反ほどの稲を元気いっぱいに刈り取り、収穫の喜びを味わいました。

ボランティアで高木せん定 九電工の「さわやか コミュニティ旬間」

10月26日、松橋町の九電工宇城営業所（前田一信所長）が松橋、小野部田、豊野の3小学校で高木せん定のボランティアを行いました。

これは、同社グループが昭和44年から「さわやかコミュニティ旬間」として毎年取り組んでいる社会貢献事業で、今年で39回目を数えます。この日は、早朝から約50人が作業に当たり、高所作業車を使って、張り出したクスノキなどの枝を切り落としました。

前田一信所長は、「これからも、地域の人々とのふれあいを大切に、地域に密着した貢献活動をしていきたい」と語っていました。



高所作業車を使っでの作業